

町報

No.256

こうふ

1992

7

月

発行：江府町役場

〒689-44 鳥取県日野郡江府町大字江尾475
☎0859 (75) 2211 F A X 0859 (75) 2389

編集：総務課

印刷：富士印刷



熱唱、のど自慢

(リハーサル風景。出演者は米子市の竹中さんご兄妹)

のど自慢の舞台裏お見せします

準備に大忙し!!

のど自慢をささえるスタッフたち

予選会の前日

NHKのど自慢、テレビではわずかに四五分の番組でも、のど自慢をささえる多くの裏方の人々によって、番組は出来上がっています。

裏方の人々をおいながら、NHKのど自慢の裏側をお見せします。

六月二十二日午前まず、体育

館の二階フロアーにシートを敷き、午後からステージづくりが始まりました。

六月二十四日、ステージが完成。NHKから放送機材が随時到着。六月二十六日、いよいよのど自慢の準備が本格的に始まりました。

仮設トイレの設営、駐車場の線引き。スピーカー、照明機材の取付け、テレビカメラの設営など手際良く準備は進みました。

放送設備のセット

完了

NHKスタッフ四十二人。役員職員は全員で会場内外の準備にあたりました。

ほかの会場からいすや机が運び出され、会場のご引きと次々に行われました。



▲各会場からいすやつくえが運びだされます。



▲会場の外では仮設トイレのすえつけが始まりました。(10基の仮設トイレ)



▲1枚1枚でいぬいに敷かれるござ。



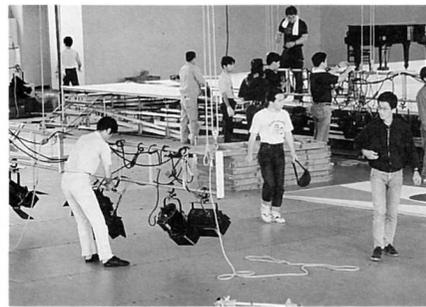
予選会前日のスケジュール

- 9:00
 いす・机を運ぶ
- 10:00
 会場にゴザを敷く
カメラ設置が完了
- 11:00
 照明・音響の設置
仮設トイレが設置
- 13:00
 舞台が完成
のど自慢らしい風景
ができました
- 14:00
 照明・音響のチェック
ゲストの控室の準備
完成
- 15:00
 楽器の搬入完了
- 17:00
 カメラテストが何度も
繰り返されました
- 18:00
 NHKのスタッフはあ
すの予選会をひかえ細
かい打合せを行いました

▶ 体育館の一階に設けられた音響装置。ここで、出演者の声がより鮮明なものに調整されます。



のど自慢の顔、吉川精一アナウンサーが江府町に夕方、到着しました。



きびしいプロの目が ひかる

会場には、テレビカメラのセットも完了し、舞台も完成。場外には中継車が。生中継の場合はこの中継車から全国にそして世界に電波が飛んで行きます。だんだんとのど自慢を迎える雰囲気盛り上がりつつ来ました。放送器具のセットが終わると点検が入念に行われ、鮮明な画像と音を作り出すために何度もチェックが。厳しいプロの目がひかります。

▶ NHKのスタッフが照明器具の取り付けを会場で行なっています。



▶ NHK中継車がセット完了。

▶ 会場の外では、多せいの観覧者をスムーズに入場して頂くための準備作業が行われています。



のど自慢の舞台裏お見せします

本番を明日にひかえて

熱気ムンムン予選会

出場者152人

予選会当日



予選会当日、十時三十分、約三十人が十二時三十分の開演を待ちかねて並んでいました。続々と予選会参加者百五十二人が会場に。遠くは広島からきた人も十一時過ぎ、吉川精一アナウンサーが会場に到着。

も、すてきなお祭りのよう一度来て見たいですね。との感想。会場では、予選会参加者のなかには、カセットテープに自前の歌を用意して、練習に余念がありません。予選会開会を前に参加者の胸は徐々に高まっているようでした。NHKスタッフは何回も、音響のテスト、照明のテストを行い、演奏者も何度も音合わせをしています。十二時三十分。待ちに待った入場の開始です。

四〇〇人の観覧者は、目を輝かせて二階の会場へ。

予選会のはじまり

午後一時予選会の始まり。注意事項を鳥取放送局の小山ディレクターが説明。そして、吉川精一アナウンサーが登壇し、『がんばってください』と参加者を激励。



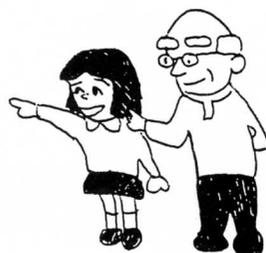
▲開演2時間前から並ぶ観覧者のみなさん。



▲会場前にはNHK米子支局のパネル展示。



▶明日の本番をひかえて備品のチェックに余念のない接待係のスタッフ。



予選会のスケジュール

9:00



スタッフ集合
掃除と器具の点検

10:30



観覧者の一番のり

11:00



のど自慢の顔
吉川精一アナウンサー
到着

12:30



観覧者、予選会の
参加者入場

13:00



予選会のスタート
152人の熱唱続く

16:00



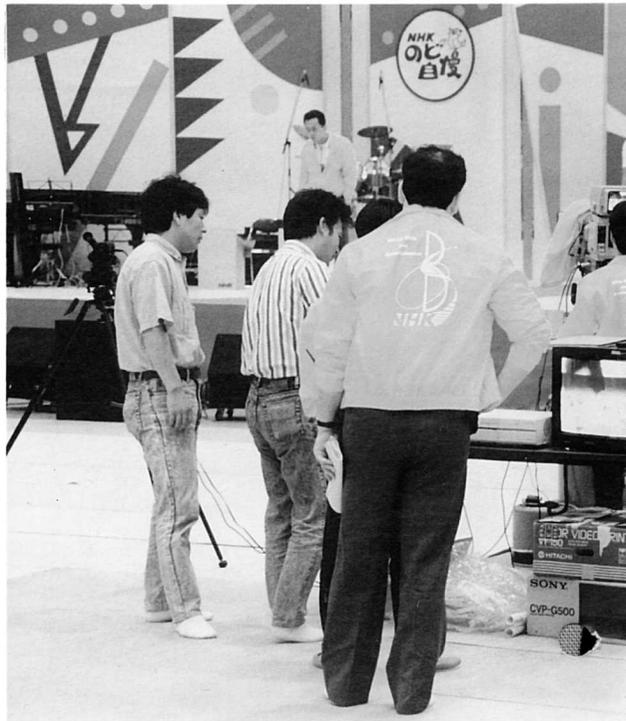
予選会終了後
カラオケ大会

17:00



のど自慢出演者
25人の発表

▶何度も繰り返し返されるカメラテスト。スタッフの目つきも真剣そのもの。



そして、出場者は、『一番/○○○』と曲名を名乗って得意の歌を熱唱。参加者は自分の順番がくるまで生唾を飲んだり、のどがからからになったりともう大変。普段の実力が出なかつたと残念がる参加者も。審査結果の発表を待つ間、期待と不安が参加者の心の中を駆け巡っているようです。そして、午後五時、本番の出場者二十五人の発表です。次々と出場者の名前が発表されるとガッツポーズをとる男性や歓喜の声を上げる女性。反面名前を読み上げられなかった方々は意気消沈の様子も見受けられました。そして、明日は本番！

予選会の説明をする小山ディレクター▶



▲自分の出番を待つ出演者。カセットテープを聞きながら練習に余念がないが、胸の内はドキドキ。



▲明日の本番。出場者25人の決定。

のど自慢の舞台裏お見せします

いよいよ本番です

二千人をこえる観覧者ののど自慢に感激

本番当日



のど自慢当日、雨模様の天気予報をくつがえて、晴れ渡った青空。

場外整理係は午前七時にそれぞれの位置につきました。

午前七時三十分に日野町からのご夫婦が一番のり。

午前八時にはすでに観覧者は四十人。

午前九時までに出場者が次々と入場。昨日の予選会の顔と違うような気がしました。

裏方のスタッフは放送器材の点検や清掃に余念がなく、ゲストを迎える案内係もちよつぱり緊張気味。

出場者と吉川精一アナウンサーとの打ち合わせが始まりました。『歌うときは動作をつけて、表情豊かに』と細かい注文が出るが、なごやかな雰囲気のおかげで打ち合わせが進みました。

そして、ゲストの坂本冬美さんが到着、続いて、前川清さんが。控室ではゲストの発声練習が聞こえ出しました。

何度も行なわれた

リハーサル

リハーサルがスタート。出演者の出方からマイクの取り方まで、スタッフから細心の注意がありました。続いて、一人ひとり



▲ゲストの坂本冬美さんのリハーサル風景。そばに立っているスタッフは、カメラの位置を確認。



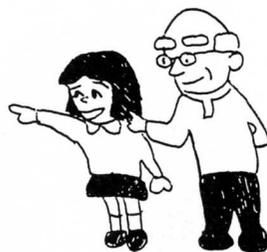
▲江尾郵便局の皆さんも設営に一生懸命。



▲音合せを繰り返す伴奏のみなさん



▲本番前吉川精一アナウンサーは、出演者と懇談。



NHK総合、ラジオ第1放送、衛星第2

本番スケジュール

- 7:00  スタッフ集合
- 7:30  一番のりの観覧者が待つ
- 9:00  出場者25人が到着
- 9:30  坂本冬美さん・前川清さん
ゲストが到着
- 10:00  リハーサルの開始
- 11:00  観覧者約1,000人が
開演を待つ
- 12:00  観覧者入場開始
- 13:00  のど自慢本番
スタート

▶会場に入場する観覧者のみなさん



の音合わせ、短時間の中で手際良くリハーサルは進行了ました。一人ひとりの音合わせが終わると吉川精一アナウンサーが肩を叩きながら、温かく励ましていました。そして、ゲストの前川清さん・坂本冬美さんもしよに本番と同じようにリハーサルが行われました。

十二時、入場を待ち受けていた観覧者約千人が会場へ。またたく間に、会場は人・人・人でいっぱい。

午後一時、福田町長が待望ののど自慢を誘致できましたとよるこびの挨拶、続いて、乗本江尾郵便局長が挨拶した後、のど自慢の顔、吉川精一アナウンサーが登場、会場から割れるよう

わが町から出演者8人



下蚊屋の大森正文さん 本三の小谷元伸さん 大河原の神庭賢一さん 荒田の永井悦子さん

本一の小倉郁子さん 尾上原の山本 優さん 貝田の森田広実さん(左)・森田稔さん(右)

な大きな拍手が沸き上がりました。そして、スタッフのサインが出て、本番のスタート。本番はテレビ・ラジオでご覧

NHKのど自慢の放送 8月2日(日)12:15から

老人福祉センター建設着工へ

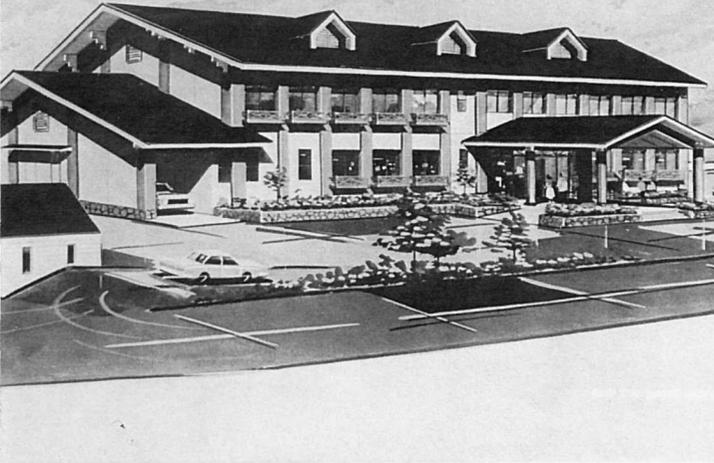
建設の音・鳴り響く

七月八日、待望の老人福祉センターが着工。

運動公園グラウンドに隣接してあった旧中国電力事務所

のあとに建設されます。現在、旧中国電力事務所が取

り壊され、着々と完成に向けて工事が進んでいます。



▲老人福祉センターの完成予想図

この老人福祉センターは、総工費四億八百万円で、鉄筋コンクリート二階建（エレベーター付）建築延面積九八五・九九㎡の近代的な建物です。

工事は米子市の小野工務店が請負。明春、三月十九日を目指して急ピッチに工事が進んでいます。

高齢者の皆様にゆつくりとくつろいで頂くために、教養娯楽室、図書室、畳のある談話室、それに浴室もそなえています。高齢者の皆様に自由につかって頂くために現在、運営について検討しております。

スイングベルの塔 （ふるさと）の鐘

第七回手づくり郷土賞 （建設大臣）に輝く



▲表彰を受ける福田町長（広島市にて）

このたび、チロルの里の象徴でもあるスイングベルの塔が第四十四回の国土建設週間にちなみ第七回郷土賞（ふるさとの色と光の部門）に輝きました。

これは、夜間に輝くスイングベルの塔と三色の噴水（甘酒茶屋）が、町のシンボルとして江府町のイメージアップを図ったことが認められたものです。

七月十日、広島市のグラランドホテルで、広島建設局長より江府町長に建設大臣からの表彰状と手づくり郷土賞の銘版の伝達式が行われました。

上の段広場が花いっぱい

奥大山チロルの里モデル花壇

六月十日に完了した奥大山チロルの里モデル花壇。咲いており、年四回、季節ごとの花を植えかえする予定です。

県の花と緑のふるさと推進事業で建設総工事費百二十万円。

花壇の角にはアート平版にスキーや、ふるさとの鐘などをあしらひ、訪れた人の心をなごませています。

現在は、サルビア、マリーゴールド、ペチュニアがきれいに



▲上ノ段広場のモデル花壇

一人ひとりを大切に 考えてみよう同和問題

部落解放月間によせて

七月十日(金)から八月九日(日)まで、部落解放月間が行われています。

現在県下でさまざまな講演会、研修会が開催されています。

この期間を通して、同和問題をお互いに自分自身の問題として考えてみたいと思います。

わが町での取り組みは?

江府町では同和教育推進協議会を中心に、各支部(小学校区ごとに江尾支部、米沢支部、明倫支部、俣野支部)ごとに地域の実情に合せながら、年間計画を立てて、小地域懇談会(集落単位での学習会)や県下、町内で開催される研修会に積極的に参加しております。

わが町の同和問題についての意識は?

たしかに、従来にくらべて、変わりつつあると思います。それは、同和問題について、正しい理解が深まりつつある結果だと思えます。しかし、部落差別はよくないということは理解できても、実際、あとをたたない差別事件をみるにつけ、まだまだ問題は山積んでいます。

ただ、研修会等を繰り返すなかで、少しずつ変わりつつあるという現実があるのは事実です。昭和六十三年の意識調査(江府町単独調査)では次のとおり結果がでています。「公民館などでも同和教育が

行われていますが、あなたはどうお考えでしょうか」の質問に
対して

回答として

「部落差別をなくすため大切」

四十二・三%

「ことさら強調しなくてもよい」

四十三・一%

前回(昭和五十三年)調査では、「ことさら強調しなくてもよい」の数値は五十一%で、以前より同和教育の必要性が進展している結果です。

しかし、差別解消にむけてはまだまだ根深い差別意識が心のなかにひそんでおり、この機会を取らえて、同和問題を自身身の問題として取らえ、考え、行動していく必要があると思えます。

人が人を差別することこそ、おろかなことではないからです。

同和問題講演会

8月6日(木) 米子市文化ホール

午後2時~3時30分

三重大学 人文学部

教授 今野 敏彦氏

演題「だれもが幸せに」

献血ありがとうございました

おつかりました

六月二十二日、献血車が参りました時に、真心の献血を次の皆様にご協力を頂きました。

紙面を通してお礼申し上げます。ありがとうございます。

なお、太字の皆様は四〇〇cc 採血にご協力いただいた方々です。

◎江尾郵便局前

福田 学 岡田千寿子

土井垣史朗 上田 重樹

砂口 正文 新見 一郎

栗林 範之 新見 道弘

田本 賢二 小谷幸之介

上原 二郎 清水 和也

大谷 康弘

◎江府町農協本所前

西村 弘樹 加藤 忠和

藤原 信雄 宮本 勅寛

津澤恵美子 川上 幸恵

澤口 勉 志水 義市

張谷 俊二 川端 睦子

川上 悦男 山本 優

◎江府町役場前

三上由理子 梅林 美鈴

原 芳恵 藤原 昭仁

千藤 正 加藤美和子

池田 健一 加藤 一夫

桑原 巧 長岡 邦一

千藤 志郎 森田 勝彦

◎日本鋼管・日東建設作業所前

本村 明文 池田 健

大倉 幸子 村穂 隆理

宗高 義隆 佐藤 信夫

遠藤幸三郎 渡辺 浩二

古賀 潔文 佐藤 利明

三苦孝太郎

役場の週休二日制にご理解を

労働時間の短縮を図り、ゆとりある国民生活の実現を推進するため、国と並んで地方公共団体においても、完全週休二日制を導入することとし、地方自治法の一部を改正する法律が施行されました。

江府町におきましても、県及び西部各市町村と歩調を合せ、八月一日の土曜日からこれを実施し、役場・教育委員会は休みとなりますので、各種証明等はなるべく、金曜日までにお出かけ下さい。

なお、保育園・体育館・図書館等は、これまで通り業務を行います。

緊急を要する死亡届、埋葬許可書等は、従来通り日直員が受け付けます。

町民の皆様のご理解を頂きますようお願いいたします。

夏期巡回ラジオ体操会を開催

NHKラジオ第1放送で生放送の夏期巡回ラジオ体操会が、江府町で開催されます。町民の皆様とどんどご参加下さい。



▲体育館で行なわれたラジオ体操講習会

日時
場所

平成4年8月19日(水) 午前5時30分集合
江府町運動公園グラウンド

※雨天の場合、体育館



当日は参加者のみなさんに記念品を差し上げます。

ラジオ体操は、昭和3年に郵政省簡易保険局が制定し、NHK全国ラジオ体操連盟と共同で普及・奨励に努めています。



自衛官募集 します

防衛庁は多数の自衛官を募集しています。
来春高校卒業見込みの方を対象に二等陸・海・空士を募集します。男女は問いません。
募集要領は次のとおりです。
受付 平成四年九月五日から
試験 平成四年九月十六日

(学力試験)

平成四年九月十七日(身体検査)
採用 平成五年三月下旬
四月下旬
くわしいお問い合わせは
江府町役場・総務課または
米子募集事務所/米子市東町三
二七(古谷ビル内)
☎0859(33)2440

国民年金

64歳までの人は 国民年金に任意加入 できます

国保は他の健康保険に加入している人、生活保護を受けている人以外すべての人が加入するよう法律で決められています。そして、加入すると保険税を納める義務があります。
加入届けがおけると保険税をさかのぼって納めていただく

国保の届け出は、お早めに!!

ことになったり、あるいは、保険証をお持ちでないため、その間の医療費を全額自己負担しなければならなくなったりします。
加入、喪失の届けは、変更のあった日から十四日以内にしてください。

国民年金は原則として、二十歳から六十歳までの加入となっていますが、次の人は六十歳以上から六十五歳未満まで任意加入ができます。
◎六十歳になっても年金を受けるために必要な年数を満たしていない人
◎未納期間や年金額計算の基礎とならない「カラ期間」があるため満期の年金を受け取れない人

加入手続きは、役場に「資格取得申請書」を提出します。
六十歳になったら、自分の国民年金の期間を確認しておきましょう。



人の動き



6月届け

六月份

□お誕生おめでとう

本五 澤田 泰夢 興誠 長男

美用 三代 いつみ 信行 長女

小江尾 永井 邦明 浩二 三男

♡ご結婚を祝します

川上 司 美用から
青砥 洋子 米子市

松田 等 米子市
中前 美恵 小江尾から

芳田 善英 京都市
宮本 千代 俣野から

矢下 勝見 江尾
マリアーノマジリソティ フィリピンから

郡司 光通 埼玉県川口市
永岡 綾 江尾から

中村 文男 下安井
山田 恭子 鳥取市から

碓永 嘉彦 兵庫県神戸市
宇田川能子 武庫から

木谷 淳 佐川
末次加代子 美用から

■ごめい福を祈ります

下蚊屋 筒井 克弘 27歳
肇 宅

下蚊屋 山本和喜人 80歳
喜和宅

佐川 清水 壽男 54歳
節子宅

池の内 藤原 實 86歳
幸榮宅

訂正

人の動き、5月届けのなかで「菜 まゆみ」さんは「菜田まゆみ」さんのあやまりでしたので、訂正し、おわび申し上げます。

「ひとこと・ふたこと」

小事が大事!!

▼ささいなことをおろそかにして、大きなことができるでしょうか。

環境問題も無秩序の森林破壊をやめようとか、オゾン層の破壊をくい止めるのにフロンガスの製造・使用を禁止しようとか色々意見があります。

しかし、私たちの手では森林破壊をとめることも、簡単にはできませんし、オゾン層の破壊をくい止めることもできにくいと思います。

▼ある時、環境庁の職員さんとお話をする機会がありました。澄み渡った青空のもと、大山のふもとでのことです。

煙草好きなその方は、話しながらぶかぶかと煙草を吸っていました。おもむろにポケットのなかから、携帯用の灰皿を出して、煙草の灰やすいがらをそのなかに。

さすが、環境庁の職員さんと感心。素朴に質問しました。「仕事上、そうしているのですか?」と。

「自然はみんなのもの。仕事とか、仕事でないとか、自然には関係ないですよ。」と笑顔で答えていました。

大変、失礼な質問をしたと後悔しました。

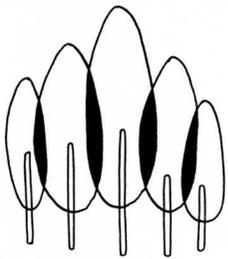
▼歩きながら、道に目につく空缶、すいかなどなど。

だれかが、拾えばと思う前自分がひとつでも拾えばもつと住みよい町になるでしょう。

小さなこと、ささいなことの積み重ねが大切だと煙草好きな環境庁の職員さんの顔を思い浮かべながら思い出しました。

環境問題だけでなく私たちの回りには、そんなことがたくさんあるように思います。

まずは、自分の身の回りから。(善)



編集後記

▼今回はのど自慢の裏方をのぞいてみました。

本番はいつさい、撮影禁止。それにしても、生の迫力はすごいものがありました。ゲストを真近に見ることも、音響にしても。

たびたび、写真を取る私自身も、何度も繰り返されるカメラテストはプロのすごさを実感しました。

本番は審査はどこでするのかと前から疑問に持っていました。個人的には、鐘を鳴らす人が決めるのかと思っていました。

違いました。別室で審査員がテレビを見ながら、鐘を鳴らす人に指示を出していました。

ひとつの番組を製作するのに多くの人々の労力があって、はじめてできていることを知りました。

▼老人福祉センターが着工。旧中電事務所もなくなり、新しい建物ができると思うと時代の流れを感じます。

整備された施設も、福祉には必要だが、心あるボランティアがあれば、更に言うことなしと思えました。



咲きました
瓜菜沢のあやめ

瓜菜沢に群生する自然のあやめ、

五月からは、三十頭の和牛がこの瓜菜沢に放牧されています。

緑のジュータンを敷きつめた高原に咲くあやめとのどかに牧草を食む放牧牛の光景は、私たちが忘れていた自然のありがたさをおしえてくれます。